

「人間のクズ」

山田えみこ

人物

大村 浩（58）政治家

菅 直人（45）大村の秘書官

東 貫太（38）警察官

運転手

蕎麦屋の店主

記者 A

記者 B

○国会議事堂・玄関広間

記者Aと記者Bが、雑談をしている。

周りは沢山の記者でごった返している。

記者Aの手には、煽り運転の記事の書かれた雑誌が握られている。

記者A「なんだ？君は、この煽り運転にあつたのか？」

記者B「そうなんだよ、もう、びっくりしたなあ」

そこへ、後ろから、大きな目の大村浩（58）が、会話に割って入る。

大村「なんだあ、聞いたよ？君たちは、煽り運転にあつたのかね？」

記者A、びっくりする。

記者A「お、大村先生！」

記者B「お！いい機会だ！大村先生としては、煽り運転について、どう思われます？」

大村「煽り運転？はは、あんなのやるのは、人間のクズだね！」

記者A、記者Bの肘をつついて、

記者A 「(小声で) おい! もっと、まともな質問しろよ!」

記者B 「だって」

大村 「ははは、俺がね、そのうち総理にでもなったら、煽り運転なんぞ、この国から、一掃してやるよ!」

記者A、記者B、恐縮する。

大村 「ははは、さあ、菅くん、行くよ!?!」

大村、上機嫌で去っていく。

大村の後ろを菅直人(45)が、小走りですいていく。

記者B 「わりと、いい題材が聞けたかもですよ?」

記者A 「ばか。記事にはならんよ」

記者A、記者B、恐縮しながら、大村と、菅を見送る。

記者B 「しかし、大村先生は上機嫌だなあ。

どうしたんだあ?」

記者A 「お前、つくづく馬鹿だな。『桜の会』<sup>T1</sup>に呼ばれたんだよ。あの、総理の腹心の会、<sup>3/</sup>

に、だ」

記者B 「ああー、それで」

記者A 「大村さんも、議員出世街道まっしぐらだ」

記者B 「なるー」

大村、スキップをしながら、議事堂を玄関から出ていく。

玄関には、黒いロールスロイスが停まっ  
っていて、議事堂の広間の中からも、  
それが見える。菅が扉を開ける。

大村が、車に乗り込み、菅も反対側か  
ら乗り込んで、議事堂の玄関から出て  
いく。

記者A、記者B、呆然と見送る。

### ○街道（夕）

暗くなり始めた街道を、大村の乗った  
ロールスロイスが走り、信号で止まる。  
街道沿いの蕎麦屋の店主が、水撒きを  
している。

バケツから撒いた水が、大村のロールスロイスにかかる。

大村「なにするんだー!!」

少し通り過ぎたところで、車が停まり、大村が窓から顔を出し、大声を張り上げる。

店主は、きよとんとしている。

大村、車から降りて、蕎麦屋の店主に食って掛かる。

大村「お前、ロールスロイスにかけるたあ、ええ度胸やなあ!」

すごむが、車から降りてきた菅に止められる。

菅「先生!明日は、総理の『桜の会』ですから、今日は早く帰って、休まれないと」

と、大村の腕を引っ張って、車に押し込む。

大村、車から、後ろを振り向き、

大村「まったく!人間のクズだ!あんな奴」と、毒づく。

菅「まあ、まあ」

ロールスロイスが、去っていく。

○大村の家・外観（夜）

大きな洋風の邸宅。

○同・大村の寝室（夜）

大村が、電話の受け答えを、ぺこぺこ  
としている。

大村「総理、ええー、そりやもう、明日は、  
遅れずに。総理の『桜の会』にちゃんと出  
ない者は、クズですよ、クズ。明日は、よ  
ろしく、頼みます」

ぺこぺここと、お辞儀をしながら、丁寧  
に受話器を切る。

両手を合わせて電話機を拜む。

大村「総理、明日は絶対へましまへん。よろ  
しくです」

深々と、お辞儀をする。

○同・外観（夜）

○大村の家・外観（朝）

朝陽が、大村の家にあたっている。

○同・大村の寝室（朝）

目覚ましを見て、びっくりして飛び起きる大村。慌てて着替え始める。

○同・玄関先（朝）

大村、大声で玄関から怒鳴り出て来る。着替えのスーツジャケットを羽織りながら。

菅、車の扉を開けて待ち構えながら、恐縮している。

大村「どうして、起こさなかったんだあ！」

菅「す、すみません！いつものお取込み中かと、思ったんで」

大村「ばか！こんな時に、女と寝る奴がおるかあっ!? 総理の大事な会だぞ!」

菅「そ、そこが、不安で」

大村、大きな目で菅を睨みつけたかと思うと、踵を返して、乱暴に車に乗り込む。菅も乗り込み、運転手は出発する。猛スピードで。

○街道（朝）

細めの一車線幅の道路を、蕎麦屋の店主が軽トラックで、トロトロと走っている。

蕎麦屋の店主、鼻歌を歌っている。

蕎麦屋の店主「ふんふんふん」

猫が目の前を通りかかる。

蕎麦屋の店主は停まって、猫が渡るのを見送る。

猫が渡りきると、また、車を走らせる。

○国道（朝）

猛スピードで走る、大村のロールスロイス。



運転手「この先、曲がると、早道です！どう  
します!？」

大村「よし！曲がってくれ!!」

カーブして曲がる、ロールスロイス。

### ○街道（朝）

カーブして入って来る、大村のロール  
スロイス。

前方を、トロトロと走っている、蕎麦  
屋の店主の軽トラに引っ掛かる。

大村「こおるらあ！なにやっとなるんじゃあ!!」

大村、大きな目をギョロギョロさせて  
車の中から、軽トラに向かって怒鳴る。

大村「急げー！急ぐんだー！」

運転手、クラクションを鳴らす。

相変わらず、蕎麦屋の運転手はゆっく  
り運転している。とぼけた顔で、後ろ  
を振り返りつつ、

蕎麦屋の店主「法定速度を守らにゃー」

大村「ふざけんなあ！」

物凄い形相で、大村、窓から顔を出し、コブシを振り上げる。

蕎麦屋の店主「ひいー！」

相変わらず、蕎麦屋の店主は、悲鳴をあげながらも、法定速度を守る。

蕎麦屋の店主「ひいー！」

クラクションをあげ、最接近しながら、軽トラを追いかけるロールスロイス。

大村、車から身を乗り出しながら、

大村「こちとら、国の、俺の、一大事が、か

かってんだー!!」

蕎麦屋の店主「ひいー！」

相変わらず速度を上げずに、軽トラ。

クラクションを鳴らし、迫るロールス

ロイス。

その脇道に、白バイが控えている。この有様を、白バイの警察官が目撃する。

サイレンを鳴らし、追い掛け始める白

バイ。

チェイスが、始まる。

×

×

×

捕まって、道端に停まったロールスロイスと軽トラ。

大村と、菅と、運転手と、蕎麦屋の店主が、しょんぼりとして、警察官の事情聴取を受けている。

警察官「で？総理の会に呼ばれて遅れて、煽り運転を？」

菅「いえ、そのう」

大村「こればかりは、公には、内密に」

警察官「何を言うんだ！」

と、ボールペンで大村の頭を叩き、

警察官「あんたみたいのを、人間のクズって言うんだよ！」

堀のへりで、先ほどの猫がきよとん、として振り向いている。

おわり